

澁川一流柔術  
無雙神傳英信流抜刀兵法

# 貫汪館会報

第68号

発行 貫汪館 発行日 平成二十三年九月十四日  
発行人 森本邦生 広島県廿日市市宮内一四八〇

## 京都・下鴨神社古武道奉納演武会

### 白峯神宮古武道奉納奉告祭

平成23年5月4日(水)京都、下鴨神社において古武道奉納演武会が行われました。貫汪館からは、森本先生が参加され、無雙神傳英信流抜刀兵法を演武されました。翌5月5日(木)には、京都、白峯神宮において、古武道奉納奉告祭が行われました。

白峯神宮には、森本先生、竹本康祐、竹本治恵の3名が参加し、森本先生による無雙神傳英信流抜刀兵法の演武、森本先生以下3名による澁川一流柔術の演武をそれぞれ奉納しました。

白峯神宮では、正式参拝後、粟田口宮司より「まずは東日本大震災において亡くなられた方々に哀悼の意を表し、負傷された方々には心よりお見舞いを申し上げます。日本古武道振興会におかれましては、昨年75周年を御迎えされた由、心からお慶び申し上げます。本日は大神様の御前で演武を奉納いただきますが、今後の各流派の繁栄と各人のご健勝を祈念いたします。」とのご挨拶後、演武が開始されました。白峯神宮は、蹴鞠の家元で公家であった飛鳥井家の屋敷の跡地であり、地主社に祀られる精大明神は蹴鞠の守護神であることから、プロサッカーチーム等多数献燈されています。また、平安時代から飛鳥井の名水は有名で、清少納言も「枕草子」で飛鳥井の井戸を名水と挙げています。

当日は、その名水を使用して煎茶方圓流による野点が行われていました。

さて、奉納演武には例年より若干少ない16流派が参加されました。静かに流れる時間の中、今年は演武予定時間に余裕があり、いつも以上に落ち着いて演武することができました。他流派の先生方も同様に滞りなく流れるような演武をされていきました。他流派の演武を拝見することは大変参考になります。みなさまも、できるだけ演武を見る機会をつくってください。

(文責 竹本康祐)



### 貫汪館居合道講習会(五月)

平成23年5月22日(日)、貫汪館主催の居合道講習会が廿日市市立七尾中学校武道場にて、横浜、名古屋など遠方からも御参加いただき行われました。

今回の講習会は大森流・英信流の中でも難易度の高い形を中心に行うというテーマの下、大森流では「陰陽進退」「流刀」「逆刀」を、英信流では「浮雲」「山下風」「岩波」を中心に稽古いたしました。

初心者である私にとって、今回の講習会のテーマはハードルが高すぎると思うのですが、何か一つでも学び取るうと決めて参加しました。

はじめに、全ての形の基礎となる座姿勢からご指導していただきました。

しかし、私は袴捌きから正座に移行する段階で、力んでしまい自然の引力にまかせて座ることができず、床に着座する瞬間に毎回膝をゴツゴツと打ちつけ、その痛みから正座してからも弛むことなく全身を緊張させる作った姿勢でしか座れませんでした。

あらためて「座る」ことの難しさを知り、今日の稽古では難しい形を習いながら、出来るだけ自然体で座ることができるようになることと自分に言い聞かせました。

形を教えていただくその都度、先生から技の想定を示していただき、自然現象に由来する形の名前と同様に、自然に体が動かせえすれば、無理無駄なく刀が振れることを説明していただきましたが、私は両隣の方の動きを見て、それを後追いつるのが精一杯でした。

ただ、講習会の終盤近くになると、ゴツゴツという着座時に膝を打ちつける音はなくなっていました。

今後は道場だけでなく日常生活から意識して座姿勢についても稽古をして参ります。

講習会の翌日、いかに自分が力み固まっていたかを、階段を昇り降りするのも難儀するほどの太ももの筋肉痛により思い知らされました。

(文責 濱村多賀司)

### 貫汪館居合道講習会(七月)

平成23年7月10日(日)、廿日市市立七尾中学校において、貫汪館主催の居合の講習会が、大小詰、詰合の形を題材に行われ、今回も愛知県をはじめ遠方からも多くの方々に参加されました。

まず、はじめに大小詰を学びました。この形は、相手がこちらの柄を手で押さえ込んでくる所を返すというものでした。相手の押さえ込む力に、こちらが力づくで対抗しようとする動きや流れが途切れてしまうのですが、どうしても力任せになつてしまい自分の未熟さを痛感しました。

次に行われた詰合の形においては相手がいることにとらわれてしまい、無理に木刀を強く打ち込もうとしたり、相手に当たる寸前で止めようとしていたりするたびに、力を入れて固まった動きをしてしまうことに気が付かされました。

そして、一つひとつの形の動きを追うあまり、決められた形に対応する動きしかできない状態になつているとの御指摘を、先生より受けました。

この度の講習会では、自分では気づいていない無駄な動きが、まだまだあることを再認識しました。また、自分の稽古への取り組みの甘さについて、あらためて反省しました。

今回、学ばせていただいたことを踏まえ、今後の稽古を心がけたいと思います。

(文責 香川寛史)

### 貫注館居合道講習会（七月）

慌てず力まず動くことの困難さ

平成23年7月10日（日）廿日  
市立七尾中学校武道場において、居合道講習会が開催されました。

今回は、素抜き抜刀術以外の形や大石神影流の形を通じて、居合のありようを探る講習会でした。まず私は、まだ稽古に至っていない大小詰から始めました。この大小詰は、いわば柔術の技法ですが、刀を扱う場合と同じく、腕力に頼らずに、肘から動くことが肝要だと感じました。

次に詰合ですが、虎一足と同じ脛受けから始まり、そこから色々と変化をしていくのですが、実際の相手を前にして、慌てず力まず動くことの困難さを痛感した稽古でした。

午後から行われた太刀打の稽古は、詰合と手順が同じ形もあるのですが、遠い間合いから詰め寄って行うため、その間合いや拍子の取り方にまた違った難しさがあります。

最後に大石神影流の稽古となりましたが、立ち方、木刀の使い方や相手とのやり取りの仕方と違いはありますが、身体を緩ませ肘から動くことは共通しており、とても良い勉強になりました。

普段ほとんど一人で稽古している私にとって、忘れてしまいがちな相手を実感でき、居合を考え直す良い機会でした。素抜き抜刀術においてもこの感覚を忘れず稽古していきたいと思います。

（文責 野村 浩司）

### 敵島神社親と子の武道演武大会

平成23年7月31日（日）、呉武道協会主催による「敵島神社奉納親と子の武道演武大会」にお招きをいただき、貫注館からは子供を中心とする演武をさせて頂きました。

また、子供達には大会終了まで他流派の方々の演武を見学してもらいました。特に自分たちとはさほど年齢の変わらない子供たちの堂々とした演武や、演武後においても気を抜かない礼儀正しい姿勢は、おおいに見習うべきであると思います。この度、大会に参加した子供達には感想文を書いてもらいましたので、その一部を掲載いたします。

（文責 西川 朋樹）

#### 宮島での奉納演武の感想

向井薫子

私は、演武の時、先生に言われた細かい所の注意点がまもれなかったのですが、それが今回悪かったのだと思います。演武をした全員の人から大きな声を出していたし、はく力がありました。特に、岩手から来ていた女の子は、大人を相手に、何本も技をかけていたし、大きな声が出ていたので、すごいなと思いました。見ているだけでも、全員から真剣にやっている気持ちがあったわってききました。全員、演武の時、上手に出来たのは、日ごろのけいこを真けんにとりくんでいるからだと思いました。



### 親子演武大会

中郷野々花

今日、宮島で親子演武大会がありました。

私の番が来て、礼式を少しまちがえたけど、すぐに直しました。他の技は成功しました。

今までは、自分たちがおわったらすぐに帰っていたけど、人を待ってたいへんだなと思いました。

#### 宮島での演武の感想

山下風花

宮島で演武をして、とても緊張しました。小学生のころからやってきましたが、本番で技をかける時に、短刀が手に刺さることもあり、軽いケガをしたことがあります。それで、今回はそのようなことが心配でした。

本番が来てなんとか一、二本目の形を終わらせて、最後まで無事成功したのでよかったです。

#### 親と子の武道演武大会

松尾厚輝

ぼくは、七月三十一日に演武大会にさんかしました。じゅうじゅうつは、三番目でした。しっばいせずにできたのでうれしかったです。れんしゅうの時は立ついちがわからなかったけど、本番では、できたのでうれしかったです。

ぼくは、けんどうやから手など、はじめて見るのがたくさんありました。やりをつかった演武が、かっこよかったです。やりが重たそうに見えただけ、やってみたいなと思いました。見学する時間が長かったので、足がぼうになつてつかれました。

宮島の演武大会は、はじめてだったので、きんちょうしたけど、ほかの演武が見れてよかったです。

